



「知己」

1学年主任 小林 文弥

中国の言葉に「知己（ちき）」という言葉がある。辞書で調べれば「自分のことを理解してくれている人」と出てくるし、一般的には付き合いの長い友人的な使い方をされている。しかし、本来の意味はもっとずっと重く、一生に一度出会えれば運がいいぐらいの、自分の「真の理解者」のことだ。人は生きていれば、「なんでわかってくれないんだ」と他人にもどかしい思いを持つこともある。「おまえはどうしたいんだ」と問われることもある。だいたい人間の多くは自分のことすらよくわかっていないし、他人のことなどもっとわからない。ところが、何かの縁で自分でも知らないような自分まで理解してくれる他人が生まれるのだ。これを知己という。

今から20年前の中国映画で「HERO」という武侠映画があった。結構人気があったので、お父さんお母さんの中には見た人もいると思う。秦の始皇帝の人物像が取り上げられ、残忍で自分の思い通りにいかないときには大量虐殺をもいとわない強欲さが描き出される。最終的には中国全土を手に入れた始皇帝だったが、実は一番手に入れたのは「知己」だった、というテーマだ。世界を征服しても、「知己」は手に入らない。

ところで、最近「知己っぽいもの」が私の近くにいる。「アマゾン君」や「YouTube君」「Netflix君」だ。もっといるが、ここでは書けないので省略する。彼らは「あなたへのおすすめ」という方法を使って私の理解をアピールしてくる。今欲しいもの、自分でも知らなかった嗜好、今後の道筋を、今までの検索履歴や視聴履歴から割り出すのだ。これは想像を絶するデータから割り出されるもので、私以外の人間のパターンも比較しながら「小林文弥とは」、という問いの答えを常に更新しながら導き出し続けているのだ。私自身も含めて誰よりも私を理解しているのかもしれない。恐ろしいような心強いような。

しかし、この蜜月も最近陰りが見え始めた。なんか「おすすめ」されても面白くないのである。新たな扉を開いていってもドキドキがないのである。これが現在のAIの限界か。「知己」は人工的に創造されないのか。

そんなことはない。AIの性能が向上し、より多くのデータが集まれば、「AI版知己」は人類の想像を超えて人々の生活に定着するだろう。そして、人を超越することもあるかもしれない。その時「AI版知己」は、始皇帝が望んだ「知己」を超えているのだろうか

～月間予定表～  
2月

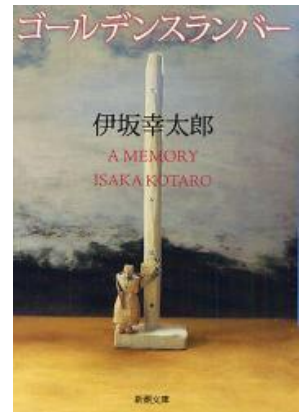
日	月	火	水	木	金	土
1/31	1	2	3 ▲	4	5	6
					スキー教室	
7	8	9 キャリア教育事業 SOW(1-6)	10 ▼	11	12	13
				建国記念日	定試時間割発表	SOW
14	15	16	17	18 ▲	19	20
					第4回定期試験 (26日まで)	
21	22	23 天皇誕生日	24 振替休日(27日)	25	26	27 同窓会入会式 表彰式 卒業式予行
28	3/1	2	3	4	5	6
	卒業式		後期募集検査	入試採点日	入試採点日	

「ピンチをチャンスに ～コロナ禍の中で～」

1年4組副担任 進藤 美津子

皆さんは、コロナ禍のこの一年、どんなものに出会えたでしょうか。私は1-4への学級通信に自己紹介したように、いろいろな本に出会えました。一番最近(1/17)読んだのは伊坂幸太郎『ゴールデンスランバー』。とても面白く、良かったです。おすすめです、13年前の本だけど。The Beatles のアルバム『Abbey Road』の「Golden Slumber」がモチーフになっています。仙台が舞台の息もつかせぬ逃亡劇のバックに、大学時代の主人公たち4人を結んだこの曲が流れている感じです。

何を隠そうアビーロードは中学時代私が初めて買ったLPレコード(!)で、改めてYouTubeで見たら大好きだった Paul McCartney のピアノ弾き語りに、これまた大学時代大好きだった Genesis の Phil Collins やオーケストラも参加してのお宝映像も見られて、幸せに浸れました。2年前は、高校時代大好きだった Queen も映画のおかげで再び良さを噛みしめられたし、今は本当に便利で、出会いや再会に恵まれた時代だなと思います。



新潮社

左：文藝春秋 右：講談社



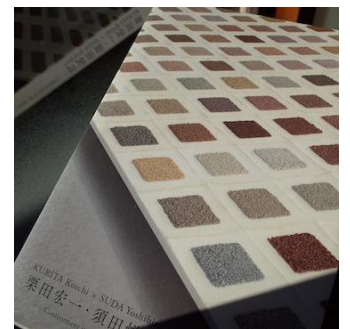
早川書房

というわけで、コロナ禍の下、私はむしろ、もしかしたら今までより多くのものに出会えたかもしれません。もちろん、皆さんにもね。皆さんはあるいはコロナ世代、と言われるかもしれませんが、4月当初はともかく、今はこうしてスキー教室まで行けそうですし、へっちゃらです。私の娘も大学4年生なので、大学祭もなくなりがっかりしていますが、結構工夫して楽しんでいるようです。困った時がチャンスです、頭のよくなるチャンスです。困難な時にこそ、知恵も工夫もイノベーションも英雄も生まれます。ピンチをチャンスに変えましょう。また、一方で「普通の幸せ」にも気付けたかもしれませんね。これも貴重なことです。

便利、というと、やはり LINE もですね。それまでは家族ライン、実家ラインくらいでしたが、4月、大学時代の友人から誘われ、時には Zoom お茶会などしながら、おばさん12人でおしゃべりを楽しんでいます。娘からはヨハン・シュトラウス2世のポルカをもじって「トリッチ・トラッチおばさん」とからかわれますが、面白い本の情報交換もしていて、私は『熱源』『宝島(真藤順丈)』などを薦め、薦められて読んだ『三体』にもはまりました。今度は『ゴールデンスランバー』や『逆ソクラテス』を薦めようかなあ。

また、小中高時代の友人たちにも何十年かぶりに出会えました。今、県立美術館で開催中(~1/31)の特別展「栗田宏一×須田悦弘展」の栗田君は幼稚園以来の同級生で、会期初日に行ったら、ほかの友達や先生も来ていて、制作中の彼を囲んでミニ同級会みたいになりました。

というわけで、コロナ禍の下、私はむしろ、もしかしたら今までより多くのものに出会えたかもしれません。もちろん、皆さんにもね。皆さんはあるいはコロナ世代、と言われるかもしれませんが、4月当初はともかく、今はこうしてスキー教室まで行けそうですし、へっちゃらです。私の娘も大学4年生なので、大学祭もなくなりがっかりしていますが、結構工夫して楽しんでいるようです。困った時がチャンスです、頭のよくなるチャンスです。困難な時にこそ、知恵も工夫もイノベーションも英雄も生まれます。ピンチをチャンスに変えましょう。また、一方で「普通の幸せ」にも気付けたかもしれませんね。これも貴重なことです。



SOIL LIBRARY II 栗田氏 Web Site より

さあ、これからも、山梨に生きる皆さんなので、ふんばって、「こびっど (COVID-19)」をバネに「こびっと (甲州弁。しっかりと)」生きて行けると信じています。応援しています。